

次年度の研究計画

3年継続の2年目です

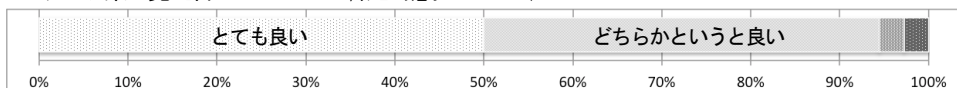


これまでの研究主題

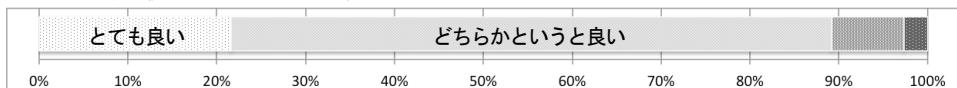
- 2000～2001年度 「選択授業で使える実験ネタ」の開発
 2002～2003年度 「選択学習と必修理科との連携・系統化」
 「新指導要領と教科書の検討」
 2004～2011年度 「わかる楽しい授業づくり」
 2012～2019年度 「観察・実験方法と教材・教具の見直し」
 2020～2022年度 「深い学びを促す指導」※コロナにより3年計画に変更

アンケートから

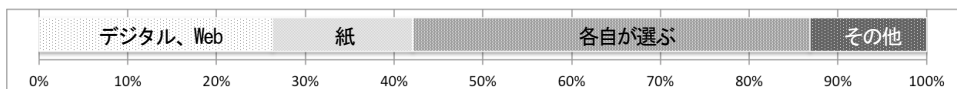
コンテンツ集の見た目について …肯定的意見が99.7%



コンテンツ集の使用感について …肯定的意見が86.8%



レポート作成の進め方について …Webか紙かを各自が選ぶ形が44.7%



自由記述から（抜粋）

【見た目について】分野ごとに分かれていて探しやすい

【使用感について】プレゼンも問題集も面白かった

セキュリティの関係で開けなかった、CDなどで配布の方がいい

今年度はコロナウィルスの影響で、実技研修会や二次研究協議会について開催不可能との判断になったこと、GIGA スクール構想が徐々に進み学校の学びが変わろうとしていることを受け、部会員の皆様のスキルアップにつながる取組をと事務局では考え進めてまいりました。部会員の皆様におかれましても多忙を極める状況だったと思いますが、たくさんのコンテンツの提出をいただいたこと感謝しております。ご理解ご協力本当にありがとうございました。

今年度を振り返ると、新学習指導要領で謳われている「予測困難な社会の変化」そのものだったのではないのでしょうか。社会の先行きはまだ不透明ながらも、私たち理科中部会は、そのような中であって新しい石教研活動につながる大きな一歩を踏み出したものと思います。個人のコンピュータ環境やスキル、職場環境による制限など課題は山積ですが、最悪の事態も想定しつつ、研究の柱は据え置きながらも「今、私たちにできること」を探していきたいと考えています。

2021年度の研究計画

研究の主題 「深い学びを促す指導」

～ 効果的な教材・教具と授業展開 ～

次年度の研究仮説

観察・実験を通した科学的な体験を行うことが難しい現在の状況を踏まえ、授業展開や教材・教具を工夫し、様々な手立てを講じることにより、科学的な知識や概念が定着し、科学的に調べる能力や自然を探究しようとする能力を育成することができる。

研究方法

①観察・実験方法の見直し

- 生徒が理解しにくい部分を中心に観察、実験方法の開発や改善などの研究を進める
 （新しいものにこだわらない。以前から行われている観察、実験についても検証する）

②教材・教具の見直し

- 生徒が理解しにくい部分を中心に教材・教具（装置・器具）の開発や改善などの研究を進める
 （新しいものにこだわらない。以前から利用されている装置・器具についても検証する）

③課題のある学習内容をいかに授業展開すべきか

- 実験が上手くいかない、生徒が理解しにくいなど、指導上の課題が残っている学習内容や、生徒が自ら探求し課題解決する授業など、生徒の深い学びにつながる授業をどう展開すべきかを研究する。

④「主体的・対話的な学習活動」を取り入れ、いかに授業展開すべきか

- 課題を解決するために、説明・論述等の活動を取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業をどう展開すべきかを研究する

※ ①～③は、レポート交流や分科会の発表を中心に研究を進めます。

「深い学びを促す、効果的な指導」の部分は、ICT機器の活用や、自ら進んで学びを深められるような内容に焦点化した指導方法やアクティブラーニングの観点を盛り込んだ内容で研究を推進していく。

※ ④については、公開授業の中で交流をはかり研究を進めます。

市町村単位の公開授業の中でも「主体的・対話的な学習活動」を意識した研究を推進していく。さらに組織的に授業づくりを行い（ブレ研や授業研など）、効果的な研究を行う。

3年計画の2年目となりますが、コロナウィルスの終息が予測できないことから、今年度同様上記②の教材・教具の見直しを軸に研究を進めていきたいと考えています。また、実技研修会については中止、管内二次研究協議会についても今後の社会情勢を踏まえてお知らせをしていくことになるものと考えます。部会員の皆様には何かとご迷惑をおかけすることと思いますが、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。